

受入先	商工観光課
隊員氏名	岩崎 泰依
着任日	平成 30 年 1 0 月 1 日

活動月	令和元年8月（着任 11 カ月目）
主な活動	武家屋敷を活用したイベント企画、和綿畑づくり、研修など

## 1、武家屋敷コットンファームの活動（8月）

8月は雨が続き、台風があったので晴れ間を見計らって茎が倒れないよう土寄せや支柱を立てました。全体的な印象としては茎が細いものが多く少し強い風が吹いたり雨が続きたりすると倒れてしまいます。最初の肥料が少なかったのか根がしっかりと地中深くまで張っていないようです。これらは来年の課題です。ですがどの株もたくさん実を付けてどんどん大きくなっています。ファームで育てている綿は和綿という日本の固有種で和綿の実の下向きにつきます。最近では観賞用の綿を多く見かけますがそのほとんどは洋綿でそれらは実が上を向いており、身の付き方で和綿か洋綿か見分けることができます。



和綿の実は下を向いて成ります。

### ー身近にあるものを活用して天然染料作りー

ファームで採れた綿を紡いで糸にして草木染を試みたくて蓼藍を栽培しましたが今年は虫に喰われてしまい失敗してしまいました。気を取り直して武家屋敷内には柿の木がたくさんあり、この時期たくさん実を付けていたので「柿渋」という染料を仕込んでみました。

写真ではなぜか東南アジアの市場の風景みたいですがこちらは渋柿を潰して水につける作業をしている様子です。これを発酵させてしばらく寝かせておくと柿渋が出来ます。8月の頃の青い柿が一番渋がたくさんあり柿渋を仕込むのに適しているそうです。柿渋は防水・防虫・防腐・消臭効果があり糸や布を染めたり家屋や生活道具に塗ることも出来ます。



綿を栽培したり、柿を使って染料を作ったり、竹の皮を取ってきてラッピングに使ったり、バナナの葉をカレーを食べる時のお皿に使ったり、イベントの際には季節のお花や植物を頂いてディスプレイに使ってみたり東京に住んでいた時にはそれらはすべて出来たものに対して誰かのアイデアをお金を出して買うのが当たり前でした。また自分でやりたいと思っても出来なかったことでした。自然のものを繰りまわしそれがこちらに来て生活する中で材料が身の回りにたくさんあることで想像力が掻き立てられ実践できることがとても贅沢な時間を感じられ心がとても豊かになります。

## 2、武家屋敷でのイベントを終えて

－知覧武家屋敷「風鈴の小径」と「知覧 de ぷろも」－

8月31日まで知覧武家屋敷「風鈴の小径」と題して武家屋敷の藤棚に約200個の風鈴を設置しました。暑い中武家屋敷にお越しいただいたお客様に少しでも夏の散策を楽しんでもらいたいと思い企画しました。時おり風が吹くと涼しげな音色が鳴り響き、その音色に誘われて藤棚公園に立ち寄って下さるお客様も見受けられました。風鈴の下で写真を撮ったりする方も多く、来年以降も夏の風物詩として続けていきたいです。

また29日と31日には知覧観光協会のPRイベント「知覧 de ぷろも」を共催しました。知覧の特産品を集めたマルシェと知覧茶のおもてなしをしました。新幹線を貸し切りにした500人近くの団体旅行の車内で武家屋敷や知覧茶のご案内をさせて頂いて、こちらのイベ

ントで再度お迎えするという企画もありました。ここまで大規模なお客様の顔の見える直接的な PR はこちらに来てからは初めての経験でしたのでとてもいい経験となりました。以前は小売りなどの仕事にも長く携わっており、このようなかたちでもっと南九州市のいいものをお客様に紹介する機会が増えるといいなと思いました。

